

ケーススタディ『精神科救急が抱える課題』～円滑な救急活動を目指して～では、以下の2症例を取り上げ、みんなで考えていきたいと思います。

症例1 「急病による要請」

【概要】

30歳代男性、要請は日曜日の深夜、共同住宅に一人住まい、救急要請の多い者、うつ病既往（投薬治療中）

【背景】

- 1 不定愁訴で明確なバイタルサイン異常がない。
- 2 かかりつけ医がクリニック等で夜間や日祭日の対応ができず医療機関選定に苦慮する
- 3 一人住まいで家族は遠隔に居住
- 4 保護依頼者がいない

症例2 「自損行為による要請」

【概要】

30歳代男性、要請は日曜日の深夜、戸建て住宅に家族と同居、自損行為の繰り返し救急要請は初めて、うつ病既往（最近は通院せず）

【背景】

- 1 バイタルサインの異常はなく、創傷の処置のみが必要であるが、医療機関選定に苦慮する
- 2 要請はするが応急処置のみで搬送拒否
- 3 自損行為の繰り返し
- 4 警察官による保護は可能か